

# 令和4年度 石狩地区の研究活動

研修部 当別町立西当別小学校  
校長 八木橋 桂 二

## 1 はじめに

石狩管内小中学校長会は、今年度 98 名（小学校 61 校、中学校 35 校、義務教育学校 2 校）の会員の総意の下で、令和元年度からの 3 年次計画を設定し、研究主題「自立・協働し、未来を創る石狩の子どもを育成する学校教育の推進」の解明に向け、研究活動を進めている。だが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対応により特別協議題を設定。研究計画を 1 年先送りし、4 年次研究に変更。今年度についても、開催方法を工夫し、研究活動を進めてきた。



◇11月8日 秋季学校経営研究会◇

## 2 研究計画

### (1) 研究主題

令和元年度～令和4年度（4年次計画） ※3年次計画から変更  
「自立・協働し、未来を創る石狩の子どもを育成する学校教育の推進」  
～「自立した人格」と「未来を切り拓く資質・能力」を育成する学校経営の在り方～

### (2) 協議題・課題（令和元～3年度は協議題のみ記載）

【第1協議題】令和元年度 「時代の要請に応える創意と活力ある学校経営の推進」

【特別協議題】令和2年度 「直面した課題に対応し、創意と活力ある学校経営の推進」

【第2協議題】令和3年度 「社会の信頼・負託に応える確かな学校経営の推進」

【第3協議題】令和4年度 「社会の変化を柔軟に受け止め、子どもたちの確かな『生きる力』を育む学校経営の推進」

課題① 確かな「生きる力」を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方

〈視点ア〉知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの在り方

〈視点イ〉豊かな人間性と健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの在り方

課題② 今日的な教育課題に対応した学校経営の在り方

〈視点ア〉「社会に開かれた教育課程」の推進と家庭・地域・異校種間の連携

〈視点イ〉今日的な教育課題への適切な理解と取組

## 3 研究活動

### (1) 管内小中学校長会研究会の企画と運営

【春季学校経営研究会】（4月午前半日日程 北広島市芸術文化ホール 石狩教育研修センター）

○研究計画説明 千葉則理（管内校長会 研修部長）

○研究協議 2の（2）の課題①に準ずる。

○分科会協議 小学校1分科会提言 江別市立いずみ野小学校 早川久夫

小学校2分科会提言 千歳市立千歳第二小学校 澁谷 拓

中学校分科会提言 北広島市立西の里中学校 小森 享

【秋季学校経営研究会】（11月午後半日日程 恵庭市民会館）

- 参加報告 道小旭川大会参加報告 北広島市立西部小学校 松本広徳  
全連小島根大会参加報告 石狩市立石狩八幡小学校 得能敏宏  
全日中札幌大会参加報告 千歳市立駒里小中学校 北村 剛
- 全体会 講話「A New Hope」～新たなる希望～ 北海道教育庁石狩教育局長 田中賢一 氏
- 研究協議 2の（2）の課題②に準ずる。
- 分科会協議 小学校1分科会提言 恵庭市立和光小学校 渡邊琢真  
小学校2分科会提言 北広島市立西の里小学校 相澤 哉  
中学校分科会提言 千歳市立東千歳中学校 加藤 暢

(2) 全連小・全日中・道小・道中研究大会への参加体制の確立

- ① 道小旭川大会 提言なし 32名参加 ※5年度石狩地区分科会提言あり
- ② 全連小島根・松江大会 提言なし 3名参加
- ③ 全日中札幌大会 提言なし 11名参加 ※5年度石狩地区道中分科会提言あり

(3) ブロック別校長研修会の開催

9月午後日程で、南（A）と北（B）の2ブロックで開催する。

- ① Aブロック校長研修会（千歳、恵庭、北広島） 恵庭市開催  
研究協議提言 千歳市立泉沢小学校 安部由里香  
北広島市立西の里中学校 千葉則理
- ② Bブロック校長研修会（江別、石狩、当別、新篠津） 石狩市開催  
研究協議提言 江別市立豊幌小学校 悪七広仁  
新篠津村立新篠津中学校 吉本浩志

(4) 研究集録第38集の発行（2月発行予定）

○令和4年度（4年次／令和元年度～令和4年度研究計画）研究内容のまとめ。

## 4 おわりに

3か年の研究計画が4か年になるなど、今次研究は新型コロナウイルス感染拡大を受け、様々な制約を受けた。しかし、感染状況に応じて研究内容や研究会開催方法を工夫し、最大限可能な方法で研究活動を推進し、研究の深化と交流・連携が図られたことは、時代に即応できた新たな成果と考える。

特に令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら学校の実態を踏まえた判断が必要となる教育課程の管理について、各市町村・管内において交流し、学校の連携を図ることにより、各校長の経営判断を支えることができた。

今年度の研究会開催方法も、可能な限り会同することを模索し、会員が直接触れ合い、意見を交流する中で、校長としての資質や力量の向上を図ってきたところである。協議題、視点、課題に沿った、多くの提言を共有したが、学校改善に向けて絶えず評価・刷新し、活力ある学校づくりを通して、「自立・協働し、未来を創る石狩の子どもを育成する学校教育の推進」を図っていかなければならない。

今次研究の成果を踏まえ、国や道、石狩管内における教育課題など新たな視点を加え、次期研究計画を策定していく予定である。校長として、未来社会を見据え明確な学校経営ビジョンをもち、子どもたちに生きる力を育むため教育課程を通して必要な資質能力を育成する、創意と活力に満ちた学校経営の実践を、これからも石狩管内として組織的に積み上げていきたい。